

研究会報告 第37回

ヒューマンインタフェース学会研究会報告

お茶の水女子大学 椎尾 一郎 東京学芸大学 加藤 直樹

第37回研究会は、ユビキタスインタフェース&アプリケーション専門研究会(SIGUBI)と、情報処理学会ユビキタスコンピューティング研究会(IPSJ-UBI)、モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会(IPSJ-MBL)、電子情報通信学会実空間指向ユビキタスネットワーク研究会(IEICE-URON)、ユビキタスコンピューティング時限研究専門委員会(IEICE-UBIC)の共催で、公立はこだて未来大学で開催された。2006年2月16・17日の二日間にわたって、3会場に分かれて71件の発表があり、ユビキタスに関する多岐にわたる議論が活発に行われた。

今回の研究会は、SIGUBIの研究会をHI学会研究会として開催するにあたり、ユビキタスというHI学会研究会ではテーマとして取り上げてこなかった分野では、発表が集まりにくいのではないかと懸念から、IPSJ-UBIに声を掛け、合同研究会として開催するに至った。しかし、情報処理学会の研究会への発表申し込みが殺到してしまい、結局パラレルセッション形式を取らざるを得なくなり、合同にした効果が少なくなってしまう結果となってしまったのが残念であった。

HI学会研究会のセッションでは、5件の発表があった。バレーボールの試合の状況を実時間で記録する目的でタッチパネル式小型PCに実装されたTouch Volleyは、両手の指を利用した入力など意欲的なインタフェースが活用されていて、現場で要求される機能を実装した完成度の高いシステムであった。複雑な操作が要求される高価な市販ソフトウェアが存在しているそうであるが、これに対抗して使い易いシステムを作り、オンラインで無料配布するという姿勢も、聴衆から支持されていた。2番目の発表は、視覚障害者のために、カメラ映像内の文字を認識して読み上げるシステムの報告であった。パン/チルト/ズーム機能のあるカメラを利用している点が特徴であるが、文字領域の切り出しが実装できたところで、認識などは今後の課題のようだ。高解像度なデジタルカメラ画像を利用した看板の認識/翻訳システムなどの既存研究に比べて、今後どのような特色を出していけるのか期待したい。3番目は、PDAの赤外線通信(IrDA)を使ったナビゲーションシステムの発表であった。IrDA通信は通信オーバーヘッドや指向性の点で使いにくいのではと感じたが、さほど問題は無いらしい。とはいえ、一般的な無線LANと位置マーカークの組み合わせに対して、差別化を図れるシナリオ作りが必要と感じた。4番目の発表は、超音波距離センサで計測した壁や障害物までの距離を、信号音で提示するウェアラブルなシステムであった。視覚を聴覚に代行させるというコンセプトに基づいて、距離を信号音周波数に変換して提示しているが、実用性等を考えると音声合成等の利用も検討してはどうであろうか。最後の発表は、放送の音声の話速を部

分的に遅くして聞き易くするテレビ受信機を考えた場合、映像との同期ずれの不具合がどの程度になるかを、実験とアンケートで調査した結果の発表であった。ニュース、ドラマ、スポーツ中継などの様々な番組での同期の重要性が評価されて興味深い内容であった。ただ、最近ではテレビ番組をハードディスクで記録することも容易になったので、実時間での視聴にこだわらない手法も可能だと思われる。以上の発表の詳細はHI学会研究報告集Vol. 8 No. 1を参照されたい。

HI学会のセッションは、アプリケーションや障害者支援をテーマにした内容であったが、他のセッションではそれぞれの研究会の特色を反映して、ネットワークやシステムよりの発表も多かった。その中でも、開催大学から発表された、給電と通信の目的で導電性布を採用した衣服の発表や、ホタテ貝養殖海域の水中水温を測定する観測ブイの開発などが興味深かった。

ユビキタスインタフェース&アプリケーション専門研究会が目指すもの

SIGUBIはペン入力研究談話会を前身に2002年度に活動を開始した。2005年度には、ペン入力研究談話会から運営を手伝っていただいた方に加え、ユビキタスという言葉に関わりのある様々な方面の研究者を運営委員にお迎えし、新たにスタートを切った。ユビキタスをテーマにした研究会は、今回の共催研究会をはじめいくつかの学会に存在するが、それぞれ得意分野がすこしずつ異なっている。そもそもユビキタスコンピューティングという概念は、パーソナルコンピューティングに相当する大きな存在になりつつあるので、研究分野も広範囲でなる。本研究会は、その中でも、ユビキタスコンピューティングのためのヒューマンインタフェースと、ユーザ研究に基づくアプリケーションの提案という、本学会の使命に合致した分野を目指している。なお、平成18年度は6月と10月頃に研究談話会を、2月には今回と同様の形式での合同研究会を開催する予定である。



会場風景